

議会だより

2023.11.25 No.208

も く じ

表紙 三根小学校訪問

2P 令和5年第三回定例会

主な議決事項など

3~9P 一般質問

10~11P 質疑 議員派遣（南大東島）

12P 移住者の声



三根小学校

再来年の2025年に開校150周年を迎える三根小学校。地域の方や卒業生とともに150周年を祝う内容を検討していくとのこと。

掲げている3つの教育目標の中で、最も重視しているのが、「人権を大切にし、周囲と助け合う子」。同校の卒業生でもある川畑伊豆海校長先生は、ことあるごとに「?」（はてな）ボックスを使って、児童に語っている。テーマは「あいを大切に」。「あい」の「あ」は「あいさつ」、「い」は「いのち」、アルファベットのI（アイ、自分）。自分にとっても周りの人にとっても「いのち」は大切なもの、自分自身をきちんと理解してこそ周りの人も理解できる、「あいさつ」は周りの人に対して行う意思表示の最初の行為、自分と周りの人をつなぐ入口。

子どもたちだけではなく、大人にとっても大切な「あい」。昨今、ちまたで言われている「ダイバーシティ（多様性）」や「インクルージョン（包摂）」、この「あいを大切に」が、上手く表現していると感じました。

（取材者 真田幸久）



町役場の姿勢問う

町民、事業者に対し応分の負担を

第三回八丈町議会定例会では、一日目は一般質問後、令和5年度の補正予算の審議を。二日目は主に令和4年度の公営企業会計決算認定についての審議が行われた。

専決処分された一般旅客自動車運送事業会計補正予算では、町営バス事務所・車庫建設工事について、請負業者の職人手配の不備などにより遅れが生じることから、

149万1千円の増額が行われた。発注者である町が負担すべきものか、請負業者との契約内容、今後の査定に關しての指摘があった。

一般会計補正予算では、ハワイ州マウイ郡災害義援金の募金状況の確認や、東京都の補助金カットにより敬老会弁当券配布が4枚から2枚になったこと、アシジロヒラフシアリ防除剤の来年以降の配布予定について、観光集客キャンペーン委託先について、八丈富士山線舗装補修工事の状況についてなど幅広い審議が行われた。

町職員の超過勤務手当が補正前から440万円ほど増加しており、職員負担軽減のためにも、民間主体のイベントについては予算措置を行うにしても運営はすべて民間で行うように、執行部トップから示すべきと、職場環境の改善についての意見もあった。

令和4年度企業会計決算認定

4日の決算認定では、水道事業会計にて大川浄水場改修事業6千万円の増額の経緯などについては触れられておらず、追加費用の発生、契約内容反省も踏まえ、記録に残していくべきといった意見が出された。追及されずとも重要事項は今後の糧として積極的な情報公開を求める要望もあがった。

一般旅客自動車運送事業会計では、利用者が9万5千人で前年比1万5千人増。貸切バスの利用も1185回で前年比600回増の報告があり、路線バス運行ルートの見直しや高校生の定期料金の減

額、新型コロナウイルス感染症が落ち着き観光需要の回復が要因と説明があった。

公共交通機関としてのデマンドタクシー導入の検討含め、町営バス、タクシー会社などで公共交通会議を設立してはとの意見には、長期的視点が必要との回答に留まった。

病院事業会計では、今年の新型コロナウイルス感染症の重症患者はまだ一人も出ていないこと、いま現在感染者が東京都内に比べ島嶼部では上昇傾向にあることが報告された。

費用負担改善のため、土曜日の診療を減らせるよう4月より甲状腺、整形外科が、8月以降神経内科の診察が平日へ移動となったことが説明された。

また、いま現在経営を圧迫している原因のひとつが臨時診療による医師の交通費であることが説明された。島外への診療の通院交通費助成と比較できるようなデータ

の作成要望があった。

町民や事業者に対し、寄り添うことも大事だが、時として、町民、事業者に対し応分の負担を求める必要性を感じる議会となった。
(浅沼碧海)

主な議決事項

9月定例会 令和5年9月1・4日

◎専決処分事項の報告及び承認について(令和5年度八丈町一般旅客自動車運送事業会計補正予算)

◎令和5年度八丈町一般会計補正予算ほか補正予算4件

◎令和4年度八丈町水道事業会計利益の処分及び決算認定について ほか利益の処分及び決算認定1件

◎令和4年度八丈町病院事業会計決算認定について ほか決算認定1件

◎令和4年度八丈町水道事業会計継続費精算報告について

◎議員の派遣承認について(第72回全国漁港漁場大会) ほか1件

主な会議

議会運営委員会 令和5年8月25日

◎令和5年第三回八丈町議会定例会について

◎議会基本条例に関することについて

一般質問

9月1日 質問者7人

各質問者の録画映像はインターネットでご覧いただけます。掲載文中、表現が硬くなっている部分ありますがご了承ください。



かながわ たかゆき
金川 孝幸 議員

町民や町の職員の声を聞く町の姿勢について

町を良くするには八丈町の良くないことを知って、課題である町の悪いことを改めれば良くなると思う。苦情や要望は町の負担を増やし、職員も忙しい思いをするが、町を良くする大切な情報であり、積極的に声を聞いて攻めの仕事をするのが職員の働く意欲に繋がる。

問 広報はちじょうに意見を聞く欄を設けているが、意見は少ないと聞いている。どのような意見があり、町はどのように対応したかの事例を紹介すれば、町を良くする意見やアイデアは増えると思うが。

答 企画財政課長 町民からの意見は各担当課が電話や窓口で伺うことが圧倒的に多いと考えており、今後も適切な電話対応、窓口対応に心掛ける。伺った意見などの周知については前向きに検討したい。

問 坂下地域の自治振興委員の集いで町民の声を聞いているが、昨年は最も人口の多い三根地域からは1件の要望もなかった。自治振興委員の集いのあり

方や、振興委員を通じて町に伝える仕組みを改善しないか。
答 総務課長 昨年は新型コロナウイルスの影響により地区の集まりが少ないことも影響している。振興委員会会議で意見を聞き改善したい。

八丈町職員数の推移

(単位 人)

部門	区分	29年	30年	31年	R2年	3年	4年	過去5年間の推移
一般行政		131	133	131	136	141	132	1
教育		13	15	13	14	14	13	0
消防		23	23	26	25	27	27	4
公営企業		78	78	82	84	86	83	5
計		245	249	252	259	268	255	10

※ 八丈町ホームページ、給与・定員管理などについてより抜粋

問 苦情や要望など町民の声は担当部署だけでなく関連部署と情報の共有はできていないか。再発防止の管理体制に問題はないか。

答 町長と管理職が集まる会議で報告し合い、職員と情報を共有し再発防止に努めたい。

問 職員の不満の声は町に十分届いているのか。島外出身の職員が増えているが、出張のついでに島外の家族と会うために都内などに残るのは合理的であるが、行程から外れると帰りの飛行機代が出ない規定は町で力を入れていない移住定住策にも関わり、退職者が増えている一つの原因ではないか。

答 職員からの要望については今後も真摯に受け止め、より良い職場環境作りに取り組む。



あざぬま たかあき
浅沼 隆章 議員

防災拠点の強化を

私たちはいつ起こるか分からない災害について、島民の生命と財産を言い訳することなく守らなくてはならない。またその準備も着々と進め、災害に対してのリスクヘッジをしていかなくはならないことを踏まえて質問する。

問 災害が起きた際に防災の拠点となる、各消防団詰所に水・食料を備蓄する考えがあるか。

答 消防長 災害時の地域住民向けの水や食料などの備蓄物資の運営管理については、保管場所の指定も含めて、町総務課が主管課となり、これまで消防が独自に、これら備蓄物資を消防団詰所にて保管することは考え

ていなかった。しかし、災害発生時に自らも被災し長時間の活動を強いられる可能性もある消防団員のことを考えると、消防団詰所に水や食料などの備蓄物資を保管することは、地域住民だけでなく消防団員にとっても有効だと考える。

残念ながら、現状の詰所には災害用備蓄物資などを保管する専用のスペースはないが、これまでも総務課の依頼にて、ブルーシートや土嚢などの一部を各消防団詰所の空きスペースを利用して保管している現状がある。消防団拠点施設として支障のない範囲で、防災主管課の総務課と協議し備蓄する方向で検討したい。

問 消防団詰所の施設の状況や不備などがあるか。

答 島内5か所の消防団詰所があり、消防本部にて一斉点検を行った。三根は待機室に設置されている、天吊りタイプのエアコンが故障しており、外壁にもひび割れなどが目立ち始めている。樫立は待機室のエアコン3

基のうち2基が故障している。また、車庫のシャッターの破損があり、2枚あるオーバースライダーの1枚が開閉できない状況。末吉は待機室のエアコン2基うちの1基が故障している。また、車庫のシャッターが2枚あるオーバースライダーのうち1枚が開閉不能。大賀郷・中之郷は、現在、不備はない。現在、すべての不良箇所を業者に見積もり依頼中で、できるだけ早急に修繕をしていく予定。



八丈町消防団樫立分団詰所

副業の現状と奨励を

八丈町の農業政策が実を結び、切り葉の出荷量が日本一という現状がある中、農業者の高齢化は進んでいる。第一次産業への理解を深め、生産量を維持するため、労働力の確保は大きな課題となる。

問 八丈町では公務員の副業を申請することで、副業を認めていると認識しているが、申請が認められる基準と、現在の申請者数は。

答 総務課長 副業に関しては地方公務員法において、任命権者の許可なしに営利企業を経営してはならないとしており、信用をなくすような行為の禁止、守秘義務、職務専念の観点から規制されている。ただし、職務に関して利害関係が生じない、業務に影響が出ない、公務員としての信頼・イメージを傷つけない場合など、認められるものもある。申請者は町事業に関する以外のものでは、現在のところない。



さなだ ゆきひさ 議員
真田 幸久 議員

島外への通院交通費等助成について

○6月議会においても申し上げたが、地域によって医療環境に差が出ないようにつことに、ナショナルミニマムとして考えるべきものであって、市区町村などの基礎自治体の財政負担のみで行うべきものではなく、本来は国が主体、少なくとも広域自治体、八丈町の場合は東京都になるが、そちらが対応すべきであると考えている。6月議会においては、島外への通院交通費助成について都や国に関する積極的な情報収集や対応を求め、町長から前向きな回答を得たと認識している。（詳細は、令和5年会議録第2回定例会会議録92～94頁）

その後、情報収集や、他の島の首長、都、国などへの働きかけを行ったか、町独自でも助成範囲の拡大などを進めていくのかなど今後の方針についての説明を求める。

○町長 東京都への補助制度創設の要望については、八丈町含む九町村の内七町村が共同で新規提案を要望する予定であった。また、島しょ町村会民生部会というものがあって、そこで東京都予算への要望事項検討が

令和4年度 島外医療機関通院航空運賃補助実績 (金額は約1,800万円で過去最高額)

	難病患者	障がい者	医師の認めた者	合計
件数	26	63	979	1,068
構成比	2.4%	5.9%	91.7%	100.0%

町長答弁より筆者作成

されていたが、都議会で廃案になったことから民生部会も自身の見直しや検討に入った。7月19日開催の町村長合同会議で、難病患者と障がい者の通院については支援制度の要望をあげるということになった。

○都議会で検討された中で、問題は西多摩地区や各島の間での医療格差や、申請者が一番多い「医師の判断による」部分について制度的に成立するかといった点が最も影響したと考えている。ただし、沖繩振興沖繩特措法では多分認められているので、全離島の関係もあり、そういう場で今後発言していきたい。予算的には、総合交付金の方で要望を重ねていきたいと考えている。

温泉活用に関する住民参加や庁内プロジェクトチーム立ち上げについて

○3月、6月議会において、温泉活用の取り組みについて、前向きな回答を得たと認識している。3月議会においては、令和6年度の町制70周年に合わせ

住民からアイデアを募集すること、6月議会においては、庁内プロジェクトチーム立ち上げの話があったが、令和5年度も半分が過ぎようとしている中、進捗状況についての報告を求める。

○福祉健康課長 来年度の町制施行70周年に向けた町民からのアイデア募集については、温泉事業だけでなく、広く住民にアイデアを募るということで、6月号広報八丈および町ホームページにおいて募集を図っており、応募アイデアを参考に、70周年の記念事業を企画していくことを考えている。

温泉施設の活用については、喫緊の課題であると認識しており、町営温泉の位置づけや担部署の見直し、管理体制の強化、観光面での活用方法などについて、庁内の体制が整ったから、できるだけ早くプロジェクトチームを発足させ、町全体の温泉の将来像について、機構改革を含め、今後の八丈町としての方針を柔軟に検討していきたいと考えている。



やましたのりこ
山下 則子 議員

八丈島デマンドタクシーの早期実現を

○今年の1月から2月にかけて、事業実施者は東京都で町も協力し八丈島デマンドタクシーの実証実験が行われた。いよいよデマンドタクシーの実現に向けて走り出したと嬉しくなり、私も実験に協力した。

ただ、使い勝手が悪いと感じたのは私だけではないと思う。他の自治体を見ると、自宅付近から病院や歯科医院などの医療関係機関・銀行などの金融機関・衣料品やスーパーなどの商店・役所や公民館などの公的機関などに行き、帰りも自宅付近まで送ってくれるようになっていた。

八丈町でも導入する場合、運行時間や曜日の設定・金額など検討することはたくさんあると思うが、私はこの八丈町に住んでいる限りどんなに中心地から離れていようと、自宅付近から乗ることができて自宅付近に帰ってくるができるようになるようお願いしたい。

免許を返納しなければよかったと言われるたびに、不自由のない八丈にして差し上げたいとの思いが込み上げてくる。

そこで、次のことを伺う。

(1) デマンドタクシーについて、町はいつまでに導入するつもりなのか、用途としている時期を伺う。

(2) 運行ルートは自宅付近から乗り、自宅付近で降りると考えてよいか。

(3) 想定運賃について、私はどんなに町中から遠くてもワンコイン程度が高齢者にとって利用しやすいと考えるが、どんな金額を考えているのか伺う。

(4) デマンドタクシーの予約については、アプリと固定電話

によるものが使い勝手がよいと考えるが、町の考えを伺う。

○企画財政課長 昨年度1月23日から2月22日まで、土日を除く2日間行ったデマンドタクシーの社会実証は東京都の事業として行っている。

坂上は末吉から坂上のスーパー・坂下のスーパーや役場・病院など、坂下は八重根・神湊



八丈島スマートモビリティサービス実証実験のweb サイトより

採算性や人材確保の面から事業として成立するか実現可能なのかも含め検証していかなければならないと考える。

電話番号を固定番号にするか携帯番号にするかは、事業者の都合もあるので、事業者指定の番号とした

から坂下のスーパー・役場・病院などでポイント指定の乗降。予約制・無料で運行した。坂下は電話とアプリで予約、坂上は電話のみで行った。乗車人数は坂下110名・坂上17名。

今年度は9月下旬から来年2月まで長期に渡り運行ルートを増やし実証実験がある予定。

今回は運行範囲を坂上は人家のある限り、坂下は東はリードパークホテルあたりまで、西はビューホテルあたりまで、できる限りドアtoドアで、利用料金は1回大人300円子ども100円。今回小型の観光型のモビリティも含まれている。



いわさき ゆみ
岩崎由美議員

気象変動への対応を

国連のグテーレス事務総長は「温暖化は終わり、地球沸騰化の時代が到来した」と警鐘を鳴らした。また先日、気象庁が1946年に統計を開始して以来最も暑い夏であり異常気象といえると公表。八丈島でも2000年代初めは8月の最高気温およびその平均値は30度台にとどまることがほとんどであったが、現在は徐々に、そして着実に上昇している。水資源についても懸念され、今年については3月以降月100ミリ台で、春から夏(3月～8月)の降水量としては、2013年に続いて1000ミリほどにとどまる見込み

である。

○農産物の高温障害などについての対応が今後必要になってくる可能性がある。この件について町のお考えは。

○産業観光課産業係長 対象として考えられるものは、ハウス栽培を行っている品種が主となるかと思う。町としては、普及指導センターとも協力し各農業者への情報提供を行うとともに、新たな技術や知見を施設整備の補助対象にできるよう東京都とも常に情報共有を行っている。

○雨不足で水道を大量に使わざるを得ない生産者への支援を、現状を調査した上で検討することは可能か。

○今後の環境の変化を見極める必要がある。水道については土地の所有者と水道の契約者、それぞれ使用している人が異なる場合がある。立地や個人により水の使い方にも差が生じ、水を多く使用している人が、水を節約している人より補助を多く

受けるようなことも想定されるため、平等という観点からも制

八丈島の農業用水設備

八丈島の農業用水施設(畑地灌漑)は大賀郷地区と中之郷地区に設置されており、取水地(湧水、ため池)から導水管によって加入者の各畑地に配水されている。入会金20万円。料金は負担金(基本料)×単価×利用量(m)により計算される。負担金、単価は地域や利用者により異なる。設置から40年以上が経過しており、導水管の経年劣化が進み、改修事業が計画されている。

このほか、農業用ハウスの上に降る雨を集めるタンクなどの整備事業もある。



ハウスに設置されている天水用のタンク

度設計がむずかしいと考える。まずは自助努力ができる部分をしていただきたい。

○自助努力を、ということだが限界がある。ハウスだけでなく広大なアシタバ畑もある。今年については種ができるか、苗が活着するかを心配する声をきく。生産者から水を心配する声を実際に聞いているか。中之郷と大賀郷には農業用水があるが、他の地域にはないので散水には水道を使わざるを得ない。水道料の補助ではなく、タンクの設置などさまざまな補助の在り方もあると思う。八丈島にとって重要な産業がサステナブルであるためにも、考えていく必要があると思うがいかがか。

○町長 ハウス以外についても確かに伺っている。アシタバが相当ひどく、サトイモも大変な状況になっている。農業用水と生活用水である水道は仕分けが必要だが、日照りという現状をふまえ、農協、生産者の意見を聞いて対応できるものは対応していきたいと考えている。



議員 奥山幸子おくやま さちこ

デマンドタクシーの導入について

全国で高齢化が進み、交通手段を失う方々が増え、地方では交通の空白地帯を埋めるための対策が進められている。議会では宮城県丸森町のデマンドの取り組み「あし丸くん」を視察し、個人的には山形県南陽市の「おきタク」を見てきた。デマンドタクシーを導入している自治体は数百に上る。

八丈町でも導入の必要性は高まっていること、その仕組みは地域の実情に合わせて綿密に計画することが必要であることを感じた。

問 実行委員会で実施している実証実験の実態を把握しているか。

答 企画財政課長 今年1月に無料のデマンドタクシー実証実験を行った。9月下旬からは有料（300円、子供100円）で半年間の実験を行うと聞いている。

問 分科会の実証実験を受け、導入時期などどんな計画を考えているか。

答 結果を見てからでないと計画は立てられない。事業として成立するのもかも検討していきたい。

問 分科会、町、議会で公共交通会議をつくるべきと思うが町の考えは。

答 デマンドタクシーの取り組みはデジタル活用協議会で出た話で、この会議における町の立場は、事務局であり意見を述べる立場にはない。また、東京都からこの事業の説明を企画財政課、企業課、産業観光課と一緒に受けている。まずはデータを集め検証することがスタートと考えているので、今のところ公共交通会議を作る考えはない。

高齢者福祉政策の方向について

八丈町の人口が減少し、町の高齢者福祉策、特に介護保険事業計画は変更を余儀なくされている。今年は第8期事業計画の3年目にあたり、第9期事業計画の策定に向けて内容を検討している時期だと思う。今後は何を重要視していくのかを伺う。

問 特別養護老人ホームの施設老朽化が進んでいて建替えの必要

があると言われているが、規模や時期について話し合いは行われているか。

答 福祉健康課長 特別養護老人ホームの老朽化と建替えについては、ある程度の打ち合わせを事務レベルでしている。時期や規模についてはまだ出ていない。

問 以前、増床や建替えのために町が候補として確保している場所は、対象となるのか。

答 養和会と隣接している土地なので、対象となると考えている。

問 養護老人ホームがなくなつてから5年以上が経過しているが、その際対象だった方の受け入れ先をどう考えているか。

答 島内ではショートステイ20床のみで、必要に応じて島外施設への措置入所となるケースがある。また、民間でサービス付き高齢者住宅ができて運営している。





やました たくみ 議員
山下 巧

水産事業の活性化について

○八丈島の近海から水揚げされる海産物は、かつて東京都民の台所として重要な位置にあり漁港の整備も見違えるほどよくなった。しかしながら年々水揚げの減少にともない漁業従事の減少に歯止めがかからない状態になり観光産業にも大きなダメージとなっている。近年大手ＩＴ会社も陸上での海産物事業を展開している。わが八丈島の気候風土を取り入れた八丈ブランドの魚介類を生産する企業誘致で島の活性化をはかれないものか、町の考えを問う。

○産業観光課水産商工係長

陸上養殖について、今現在八丈島漁業協同組合から要望の声は

特段聴いていない。水揚げについても令和４年度は金目鯛が好調であったことにより漁協の決算を黒字で終えることができた」と聞いている。

今後、漁協として陸上養殖に取り組むという要望があれば、東京都などと連携し事業実施に向けてできることを支援していきたいと考える。また八丈ブランドについても漁協女性部による活動を今後も支援していくという方向を変える予定は現在のところはない。

○栽培漁業、陸上養殖というのは何も漁協がやる仕事ではなく、新しい産業として別の産業界から入ってくる。ＩＴ会社が



水揚げされたキンメダイ

魚種別漁獲量順位

(2021年1月～12月)

順位	種名	漁獲量
1	キンメダイ	377,084kg
2	マグロ類	52,398kg
3	メダイ	43,665kg
4	トビウオ	41,620kg
5	カツオ類	33,153kg
6	ムロアジ	17,782kg
7	アオダイ	7,544kg
8	赤サバ	6,292kg
9	アカハタ	5,637kg
10	オナガダイ	5,411kg

八丈町勢要覧から作成

産業別就業者数

(単位 人)

	第1次産業	内漁業	就業者数
平成22年	720 (17.0%)	115 (2.7%)	4,231
平成27年	639 (15.7%)	103 (2.5%)	4,064
令和2年	491 (13.3%)	84 (2.3%)	3,700

八丈町勢要覧から作成。第1次産業の漁業のみ抜粋
カッコ内の数値は、就業者数から見た割合

からも入ってくるということになる。栽培漁業は稚貝とか稚魚を人工的に管理して、海に放すがこれがうまく育たず縮小傾向にある。そこで海に頼らない陸上養殖が注目され、安定した産業として、10年先には二、三百億円の市場になると実際に動いて、すでに収益を上げている会社もある。企業が来てくれるのを待っているのではなく、八丈から企業誘致を積極的にアプローチしていただきたい。

○町長 ＩＴ企業が、ここ八丈に来て陸上養殖ができれば、それに越したことはないが、漁業者、漁協支援になるかどうかは疑問。こういう陸上養殖になると漁協を通さなくても販売ができたり、いろんな問題がある。漁業者が年取って沖へ出れないとか、そういう部分の支援だったらやっていきたい。陸上養殖で採算性とか、どういう陸上養殖するのか。私も山梨行ってアワビが安いのにびっくりしたことがある。魚種が以前は少量多品目で相当あった。どうやって漁業支援をしていくか、観光面だけを考えればＩＴ企業誘致も大事かと思うが、そういうことも含め検討したい。

質疑より

●町営住宅過電圧事故による住民との和解の成立について



中山昇議員 過電圧事故の内容を教えてください。
建設課長 外にある分電盤の電圧が

普段100V流れる所が一時的に200V流れていた。強い電圧が流れたことにより、家電が故障してしまった。おそらくは老朽化が原因と考えるが細かい原因は定かではない。
山下巧議員 人為的な可能性はあるか。和解となった一件のみ事故が起きたのか。
建設課長 電気会社に確認したところ、分電盤の老朽化が原因ではないかとの回答を得た。人為的な可能性は限りなくゼロに近い。事故が起きたのは一件のみ。

●町職員の超過勤務手当について

真田 幸久議員 超過勤務手当の金額をみると、職員への負担が非常に重くなっている。民間のイベントなどで町が後援を行っているようなイベントがあると思うが、町職員に負担をかけないような形で行っていくように町から伝えることはできないか。

総務課長 担当課の考えもあるが、職員の負担を減らせるよう直せる部分を直していきたい。
真田 幸久議員 島の事情はあと思うが、民間のイベントはあくまで民間が主体であると考え。職員が伝えるのは当然むずかしいと思うのでぜひ執行部のトップの人たちに姿勢を示して頂きたい。

●町営バス事務所・車庫建設事業、工期の遅れによる費用負担などの責任について

真田 幸久議員 契約を結んだにも関わらず、工期が間に合わず追加の予算が発生した。ある程度契約者にも町の負担の増加に対して責任を持ってもらうことも考えるべきではないか。

企業課長 今回の工事は2度の入札不調があり、移転の時期も迫り時間の余裕がない中で契約を結んだ。職人不足の工期の遅れは正直想定外。今回の件では今後の工事の影響も考え違約金の請求はしなかったが、管

理者から嚴重な注意を行った。

真田 幸久議員 今後の契約先としての評価に反映されるのか。

企業課長 工事終了後に評定を行う。その際に反映されると考える。

●大川浄水場追加予算の記載について

真田 幸久議員 決算の資料に大川浄水場の追加費用に関して一切触れられていない。決算報告、監査報告双方で指摘し今後の改善すべき事項であると考えるが。

公営企業管理者 想定した以上に経費がかかり町民の皆様にはお詫び申し上げなければならぬ。工事の都合上ある程度設計変更が生じるのはご理解いただきたい。綿密な打ち合わせができなかった部分も反省している。今後最小限に留められるよう努力していく。

真田 幸久議員 きちんと考えて対応していることを含めて表明して頂きたい。広報も含めて、積極的に情報を開示して改善をしているということを示していただきたい。

●公共交通会議の設立について

真田 幸久議員 毎年バス事業は赤字を計上している。八丈の交通をど

ういう形で維持していくかは公共交通会議などを設立していかないと方向性は出せない。町として前向きに対応していくことはむずかしいか。

企業課長 この先人口減少が起きていく中で考えていかなければならぬ。ただ公営企業で動くのはむずかしい。まずは国土交通省から認可を受けて行っている路線・貸切バスをしっかりとやっていきたい。できることがあれば協力したい。協議会については一般会計とも相談していく。

真田 幸久議員 町長か副町長の意見を伺いたい。

町長 住民サービスの部分で通院も観光も含めて公共のバスの必要性を感じている。福祉の観点、赤字の解消、タクシー会社も減る中で全体的に考えていくことが非常に大切。将来に向けては、もちろんどういいう形になるかだが取り組まなければ先に進まないとは思っている。

奥山 幸子議員 課長よりも前向きな意見に受け取れた。バス事業もダイヤの見直しや高校生の定期の割引など非常に前向きにがんばっていると評価している。その中で公共交通会議を設立し、情報を共有することが大事であると考えている。前向きに動いていただけるとありがたい。

◎病院事業業務効率化について

病院事務長 委託料、経費、医療事務の方の働き方、委託料の面の減額を図り、4月から甲状腺と整形外科、8月から後は神経内科も平日の診断に移行した。

奥山 幸子 議員 土曜日は全くやらないという認識で良いか。

病院事務長 その通りである。

奥山 幸子 議員 入院率をあげて収益の改善の話が出たが、看護師が少ない中で入院数を増やすのは大変ではないか。

病院事務長 その通りである。

真田 幸久 議員 常勤と臨時診療でくる医者の割合は。臨時診療でどれだけコストがかかっているか把握する必要があるのでは。

病院事務長 六分の一が常勤となっている。一番かかっている経費は臨時診療の医者の交通費である。今後オンライン診療で行えれば交通費の経費はかからない。

真田 幸久 議員 島外への診療の交通費補助とのバランスを考えた場合、今後臨時診療を減らし、島外診療交通費の補助を増やした方が効率が良い可能性もある。比較できるデータがあると判断しやすいので、今後数字を示していただきたい。

南大東村訪問

派遣議員 金川孝幸、山下巧

令和5年
9月21～25日

南大東島は沖繩から東へ360キロ、面積30平方キロと八丈島の半分の平坦な島で、人口は1200人。1820年、外国船に発見されるも岸壁に阻まれしばらくは無人島だった。

1900（明治33）年、八丈島の玉置半右衛門の開拓団23名は内陸に池があつたことで入植を決意したそうで、当時の八丈島のパイオニア精神は小笠原、鳥島、大東島、グアム島へと資源を求め命が

けで大海原に繰り出した。

大東島には八丈島の文化が数多く継承され、最初目に入ったのは「おじやりやれ大東島」。そして沖繩にない神輿、お地蔵様、大東太鼓、島寿司。奉納相撲は八丈では取らなくなったが、ここ大東神社には本格的な土俵があり沖繩相撲大会もあわせて現在も盛んに行われている。

八丈島の小中学校との交流も毎年行われ、ほとんどの子供たちが



豊年祭りにて（写真上）
南大東島開拓100周年記念碑（写真下）

八丈島にホームステイしたことあるとのこと。また八丈島の名字も多く、さながらここは八丈島かと思われるほどである。祭に繰り出す若者と子供の数が多いのに驚く。学校の先生

がリーダーになって祭りを盛り上げていくようだ。高校から島を出るためか、中学生の活動が盛んで自立心が高くしつかりしている。今後は厳しい立地条件のなか観光面で島の活性を目指すのは八丈も同じ。お互いの島が情報を交換しながら共に栄えることを祈念し大東島を後にした。

知人にもお会いでき大変有意義な訪問だった。「またのう あばよい」お世話になりました。

（山下巧）

その他の議員派遣

- ◎ 議会広報研修会 9月27日
派遣者 議会だより編集委員 奥山幸子 山下則子 浅沼碧海
- ◎ 第72回全国漁港漁場大会 10月18日
派遣者 岩崎由美
- ◎ 第34回東京都道路整備事業推進大会 10月23日
派遣者 浅沼憲春

今回の議会で一般質問されたデマンドタクシーの実証実験が、9月末より始まりました。八丈町の社会基盤の充実に向けて、大きな一歩と感じます。

多くの町民が実験に協力し、おひとり様になっても大丈夫だと安心できる未来になりますように。(山下則子)

発行人 八丈町議会議長 山本忠志

編集 議会だより編集委員会

委員長 奥山幸子 副委員長 山下則子

委員 真田幸久 浅沼碧海

〒100-1498

東京都八丈島八丈町大賀郷 2551-2

tel 04996-2-2788 fax 04996-2-4437

メール gikai@town.hachijo.tokyo.jp

いはらかずよし えみこ
伊原和良・恵美子 夫妻

ピッツェリア パラディッツ



きっかけ 移住したのは2010年。お二人とも釣り好き(磯釣り)が高じて八丈島へ。青年海外協力隊で知り合ったことがなれそめで、2005年に結婚。和良さんはエチオピア、恵美子さんはタンザニアでそれぞれ2年の経験をお持ちだ。一級建築士でもある和良さんは、今の家を購入したのち、半年かけて内装も家具もすべて自ら手掛けたそうだ。

ピザハウス そして、埼玉のイタリア料理店で数カ月の見習いを経て2012年2月

にピザハウスをオープンした。ピザ窯も自作(写真)。お店の存在が知られるようになり、最近は観光客も増えて忙殺されそうな日々もあるとか。でも、島の人にこそ楽しんでほしいというのが本音のようだ。恵美子さんは理学療法士。お仕事しながら店も支えている。本格的なピザの味と美味しさで、今では島で有名なレストランのひとつとなっている。

プライベート 和良さんのお母様と3人暮らし。2年前には恵美子さんのお母様も島に呼び寄せた。2頭の柴犬も移住前から家族の一員だ。マラソンが趣味で、夫妻で去年3月の東京マラソンに参加した。近く海外のマラソンも予定しているとか。活動的なお二人の生き方とピザの味をこれからも島の人に届けてもらいたい。(奥山幸子)



移住者の声
来てみりゃ
八丈は...

やなぎ よしつぐ
柳 義貢さん 51歳



今年の1月、福岡から移住してきた通称つぐ爺は、離島に移住したいと思い立ち、たまたまネット検索で八丈島がヒット。八丈島に行こう!と決めたら、仕事も住居も決まってしまったそうです。

昼はモービルスタンドで働き、夜は魚八亭のバイトに呼ばれ...なかなかお忙しいですねと言うと「いや~ 以前は、朝から夜までの身体的にもキツイ仕事でした」とのこと。

Bulblue caféでお茶しながらお話を伺っていると、たくさんの方が声をかけてくださいました。彼の人柄ですね。明るい好青年です。

町への要望は? 「雨の日に行くところがあるといいですね。観光客はもちろんのこと島民も過ごせるような...今は観光客に聞かれても温泉くらいしか返事できないですもん」

(山下則子)